

所定計量記念日事業のお知らせ 都民計量のひろばと計量展示室特別展示

◇都民計量のひろば
【メインテーマ】くらしと計量
【サブテーマ】消費者の信頼ささえる確かな計量！

【開催日時】11月1日(水)、10時30分～16時
【場所】新宿駅西口地下「新宿駅西口広場イベン」

「新設展示」として、国の重要文化財に指定されているメートル原器の複製品やキログラム原器の複製品、江戸時代から現代までの歴史の経過がうかがえる計量器等の展示のほか、計量感覚ゲームなどが体験できるコーナーを設けてある。

【開催日時】11月1日(水) 10時30分～16時
【場所】新宿駅西口地下「新宿駅西口広場イベン」

「新設展示」として、歴史的に珍しい木製はね式指示はかり、光電式はかり、陶器製はかりなどを展示する。

常設展示として、国の重要文化財に指定されているメートル原器の複製品やキログラム原器の複製品、江戸時代から現代までの歴史の経過がうかがえる計量器等の展示のほか、計量感覚ゲームなどが体験できるコーナーを設けてある。

【開催日時】11月1日(水) 10時30分～16時
【場所】新宿駅西口地下「新宿駅西口広場イベン」

「新設展示」として、歴史的に珍しい木製はね式指示はかり、光電式はかり、陶器製はかりなどを展示する。

常設展示として、国の重要文化財に指定されているメートル原器の複製品やキログラム原器の複製品、江戸時代から現代までの歴史の経過がうかがえる計量器等の展示のほか、計量感覚ゲームなどが体験できるコーナーを設けてある。

シリーズ 計量と適合性評価(2) 奈良広一

適合性評価とは 一言葉の定義

最近、ものづくり日本の根底を揺るがすようなニュースが相次いでいる。2015年ごろにドイツ製のディーゼル自動車において、排ガス検査の時にだけ良い値を出すような規制逃れのソフトウェアの使用などが報道されたときは、『まさか、ドイツが』とまた余裕があった。他の国のことだと思っていれば、国産車でも同様のニュースがあり、つい最近になって、素材メーカーのデータ改ざんが発覚し、そのメーカー製の材料を使った製品の安全性を確認する作業に追われているとの報道がある。このままでは、『日本企業は信用第一でモノづくりの仕事をしてき』

「責任追及はともかく、なぜ起こったのかの根本原因を知りたい。」
上記の検査や試験は「適性評価」の1つである。今回は実質的な第一回目として、言葉の定義から入りたい。正確な定義を知ることは正確に考える前提になる。読者が詳しく知りたければ、JIS Q17000を参照できる。

適合性評価とは、まず例でいうと、試験、検査と部品メーカーがある。この「部品の供給者」「第一者」である部品メーカーによる部品の検査は「第一者適合性評価」に分類される。一方、部品を注

【構成団体】(50首順) 定所、松屋、東京都計量協会、東京都計量検定所(以上18団体)

◇計量展示室特別展示
【概要】常設展示に加え、東京都計量検定所が所蔵する歴史的な珍しいはかりを特別に公開する。
〈展示予定〉
特別展示として、歴史的に珍しい木製はね式指示はかり、光電式はかり、陶器製はかりなどを展示する。

常設展示として、国の重要文化財に指定されているメートル原器の複製品やキログラム原器の複製品、江戸時代から現代までの歴史の経過がうかがえる計量器等の展示のほか、計量感覚ゲームなどが体験できるコーナーを設けてある。

【開催日時】11月1日(水) 10時30分～16時
【場所】新宿駅西口地下「新宿駅西口広場イベン」

「新設展示」として、歴史的に珍しい木製はね式指示はかり、光電式はかり、陶器製はかりなどを展示する。

常設展示として、国の重要文化財に指定されているメートル原器の複製品やキログラム原器の複製品、江戸時代から現代までの歴史の経過がうかがえる計量器等の展示のほか、計量感覚ゲームなどが体験できるコーナーを設けてある。

【場所】東京都計量検定所(東京都江東区新砂3-3-41)

【連絡先】管理指導課 企画調整担当 03-5661-7166

※事前申し込みは不要

【編集委員(50首順)】
▽石井康二▽大木朗▽北野芳男▽坂本雅広▽高田慎吾▽高松宏之▽竹内健治▽竹添雅雄▽奈良広一▽物江稔▽横山守一
(一社)東京都計量協会 03-6666-8960

お知らせとお願い
この「特集」とうきょうの計量」は隔月(偶数月)に発行し、東京都計量協会の会報に代わるものとして全会員に配布しております。会員皆様のご投稿・ご意見・ご質問のほか、各都道府県の動きなどは是非お寄せ下さるよう、ご支援をお願いいたします。

注した製品メーカー(「用問題になるので、外注先の部品メーカーとは契約を取り交わし、部品メーカーの製造プロセスの品質管理や検査方法と合格基準の合意を取り交わす。また、製品メーカーは発注側として定期的に部品メーカーの工場に対して監査に向くのが一般的であるし、納入された部品に対して自ら受入検査をおこなう場合もある。第三者証明である。もう一つは第三者試験所である。試験の信頼性が特に重要な場合など、発注側が独立した第三者試験所を使うようにシステム(MS)に要求し、部品メーカーが部品を納入する際にその試験所の発行する試験成績書を添付することには発注側にとつて試験結果の信頼性は増すかもしれない。最後は認定機関である。製品メーカーとして

「認定」となるとか区別しようとして『試験所認定』という言葉を使うこともあるが、認定対象は試験所に限らず認定機関もあるのが正確でない。と称するべきものであり、また、第三者により認定機関が、適合性評価がおこなわれ、信頼性が高いことを強調するあまり『認定機関認定』と言った方が、使う勇気がない。英語ではaccredited、なので、これは紛れがなくよい。

この記事冒頭のようないふくは、認定という言葉事態が起こってしまう。このシリーズ掲載途中にも何らかの規制の動きがあるかもしれない。その時は記事の内容も少し見直さなければならぬ。最新のニュースの広がりを見るに、最近では『しっかりと定を認証と呼びます』な見えない。新しい最適解が早く見つかることを祈ってやまない。

トラックスケール・計量装置を総合サポート

はかりのレスキュー隊

確かな技術力！現場の声を生かします

株式会社 ワーク衡業
東京都江戸川区鹿骨1-6-8 (〒133-0073) TEL 03-3679-0086 FAX 03-3677-5703
フリーダイヤル：ワークキューキョウ 0120-809-994

ハカリは共栄

(寺岡)デジコンポ特約店
各種計量器・計測器・ラベラー機販売修理
[全国計量器販売事業者連合会・会員]
[認定計量器コンサルタント有資格者の店]

共栄衡器製
東京都足立区千住河原町45-6
TEL 03(3882) 8101 (代)
FAX 03(3882) 8172
E-mail : sales@kyoei-koki.com
URL : http://www.kyoei-koki.com

保守管理・代行検査業務・ISO対応計量管理業務

CAMPBELL SCIENTIFIC, INC.
各種データロガー、センサー、ウェザーステーション、各種測定システム

Sentek Technologies
プロファイル土壌水分センサー各種
日本総代理店

おかげさまで創立80周年を迎えました。

太陽計器株式会社
http://www.taiyokeiki.co.jp

営業本部 〒114-0032 東京都北区中十条1-12-3
電話 03-5963-5361 FAX 03-5963-5362

東西計コン合同研修見学会

大阪造幣局と綿業会館で9月26日実施 計量器コンサルタント協会会長石井康二



東西計コン合同研修見学会

計量器コンサルタント協会が主催し、「大阪造幣局」と「綿業会館」の2カ所を見学。一行は大阪よりタクシード北区天満の造幣局本局を目的地とした。造幣局本局は、敷地面積10万870㎡の規模で、貨幣製造事業と装金事業、試験・検定事業および貨幣販売事業を営む独立行政法人で敷地内に造幣博物館を有している。多品種の桜も植樹されており「春の桜の通り抜け」は有名だ。現在国内で流通する500円、100円、50円、10円、5円、1円の6種類の硬貨を製造する工程とラインを見学。偽造防止の潜像や斜めキザを施す高度な技術の説明に一同は唖らされた。その後、造幣博物館に移動し豊臣秀吉が造ったとされる「天正長大判」や明治新政府が造幣技術の

総力を挙げて誕生させた「20円金貨幣」等を見学した。館内にはオリンピック入賞メダルや勲章・外国貨幣、記念硬貨なども展示されており、それぞれの時代のメッセージを聞き歴史に触れる貴重な体験となった。一行は、普段見ることができない各種勲章の製作工程も特別に見学することが許され、一つ一つ丁寧な手作りする職人の巧みな手さばきに魅せられていた。予定通り見学を終えた一行は、タクシード分乗し中央区備後町の「綿業会館」を目指した。綿業会館は、1932(昭和7)年1月1日に開館した建物で、戦前の日本の近代美術建築の傑作といわれている。当時は珍しい井戸水を使って冷風送気をおこない、各部屋の窓には鋼鉄ワイヤー入りの耐火ガラスを使用していた。そのため戦火を免れ現在にその姿

株式会社 第一計器製作所
http://www.daiichikeiki.co.jp

圧力計

を残すことになった。開館当時に、リットン卿らの率いる英・米・仏などからなる国際連盟満州事変調査団の来館があり、その後も各国の要人らが来館し国際会議の場として激動の昭和史を刻んで

指示計 記録計 調節計
www.sanwakeiki.com
温度・圧力 三和計器
TEL.03(5984)3362(代)

きた建築である。館内に入り、本館1階のホールから会員食堂を見学、2階、3階へと進み談話室や会議室、特別室とそれぞれの部屋にまつわる史実と併せて見学をおこなった。各部屋共に作りや装飾品に特徴があり、ただ機能的というよりこだわりをもって作られた建物を感じることができた。その後一行は地下1階のグリルで会食をし、年1回の交流において各自の親睦を深めた。

日本計量新報全紙面
閲覧用 ID & PW
ID:5138
PW:bhc5pet3

社説

法令の建前がときどき表にでる日本社会

間違いがあって犬に子が生まれてその子を人に渡すのは犬の販売とされる。有料であっても無償であっても子犬を人に渡すことは販売である。販売には事業登録がある。登録なしで子犬を無償で人に渡してもそれは販売であり違法の扱いをされる。東京都練馬区で登録しない子犬を販売したことが違法であるという事で普通の人が逮捕・連行されるようすがテレビで放映された。裏に事情を隠しているのだろうか。そのようすが2017年10月にあった。

日産自動車は検査員の資格をもたない者が最終検査をしたとして役所に告発された。日産は空前絶後の費用をかけて対応する。日産の社長は悪かったと恭順の姿勢を通している。法令違反を普通にする組織とその人々がみせるようすが営業政策によるものである。文章にはなっていないが社内ではそれで良いという判断だったのだろう。技術面での妥当性はあったと推察される。神戸製鋼所はデータ改竄だと告発された。法令対応の細かなことで取締役会で話題になったことがあったと社長が述べる。日産自動車も神戸製鋼所の製品は「事件」はともかくとして性能に不備はないはずだ。製品の

性能には余裕が持たされているのが普通であるからだ。子犬を無償で人に渡すことは販売登録をしていなければ違法である。法律を楯にとると処断される。この事件は有償での販売であった。法律と法令は大筋でも細部に及んでも合法と違反とが曖昧である。人々は塀の上を歩いている状態にある。風が吹いたり地震があると塀の中に落ちる。怖い仕組みの社会である。安全でも安心でもないのが今の時代である。怖い社会への慰めのために役人たちは安心と安全の空文句をさかんに使う。

塀の中にいつ落とされるのかわからないのが計量法と計量行政の世界にはたくさんある。ハカリの世界では定期検査の前に事業者がハカリが正しく機能するように器差を調整する。器差を調整すると再検定を受検してこれに合格しなければならぬ規定である。そのようにする者は少ない。多くの場合には器差調整してその後定期検査を受検して合格する。本題の本質ではないが定期検査の器差は検定するときの器差(検定公差)の2倍である。事業に従事する者は規定に反することをしている場合がある。風の吹き回しで罪に問わ

れるかわからない。規定を変えて器差調整が合法であるようにすることを本音では求めている。

犬の子犬の販売の法令は国会がつくった。動物愛護という言い回しで国会に掛けられて法律は成立した。わずかな不都合を針小棒大に取り上げる。動物愛護の法律が必要だという論理が国会を闊歩する。天下国家の大道など無縁の小粒議員が賛成する。法律を自分がつくったと業績にする。日本は安全でも安心でもない息苦しい社会になった。千葉県では繁殖業の従事者が犬に咬まれて死んだ。事故現場で担当の公務員は「法令に従って対応するだけです」とテレビカメラに向かって話した。法令に従えばどんな行動からもうアラがある。誰かが悪いことにするのが法律と法令である。

計量法に関連する事業者ほかの業務を法令に照らすと違反の事例は多い。計量行政の大儀とその実施の細目の整合をどのようにとるか。役所にしかできない業務が実際には株式会社と同じ組織でなされている。あえて言えばこうした事態の大半は役所の怠慢が原因でおこる。取り締まるのは役所の側である。いざとなれば株式会社と同じ組織の業務は違反であるが役所が裁定する。違反になる業務をつくりだした役所の当事者はその時には異動している。

117年の伝統とイノベーションの計量装置総合システムメーカーです。

OMI 計量と制御の技術集団

OMIの製品<支えるのはイノベーション>

- 各種工業用プラント
- 各種農水産物選別プラント
- 液体・粉粒体充填装置
- 配合・調合計量システム 設計・製造
- トラックスケール計量・データ管理システム
- トレーサビリティ管理システム
- 各種穀物用計量機

多様なニーズに110余年の技術開発とノウハウでご提案します。

計量システムの専門メーカー

伝統の技術・先進の技術・信頼の技術

近江度量衡株式会社

本社 〒525-0054 滋賀県草津市東矢倉 3-11-70
TEL.077-562-7111 FAX.077-562-7116

【国内拠点】 本社草津工場・東京・札幌・帯広・仙台・新潟・熊本・久留米
【海外拠点】 韓国(仁川)・中国(上海)・タイ(バンコク)
URL: http://www.omiscale.co.jp

圧力計測機器の校正は長野計器グループへ

豊富な校正機器、充実した校正設備で様々なニーズにお応えします。

高いスキルを持ったスタッフが丁寧にJCSS校正作業をおこなっています。

長野計器とナガノ計装は、計量法に基づく圧力の校正事業者です。

JCSS 0080 JCSS 0143

長野計器株式会社 品質保証部(JCSS0080)と株式会社ナガノ計装 計測器校正サービスセンター(JCSS0143)は、認定基準としてISO/IEC 17025(JIS Q 17025)を用い、認定スキームをISO/IEC 17011に従って運営されているJCSSの下で認定されています。JCSSを運営している認定機関(IAJapan)は、アジア太平洋試験所認定協力機構(APLAC)及び国際試験所認定協力機構(ILAC)の相互承認に署名しています。

長野計器 本社/〒143-8544 東京都大田区東馬込 1-30-4 TEL 03-3776-5311 FAX 03-3776-5320
http://www.naganokeiki.co.jp/ お問い合わせはフリーコール/0120-10-8790

ナガノ計装 本社/東京営業所 〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-30-4(長野計器ビル)
TEL 03-5718-3281 FAX 03-5718-0238 http://www.nagano-keiso.co.jp